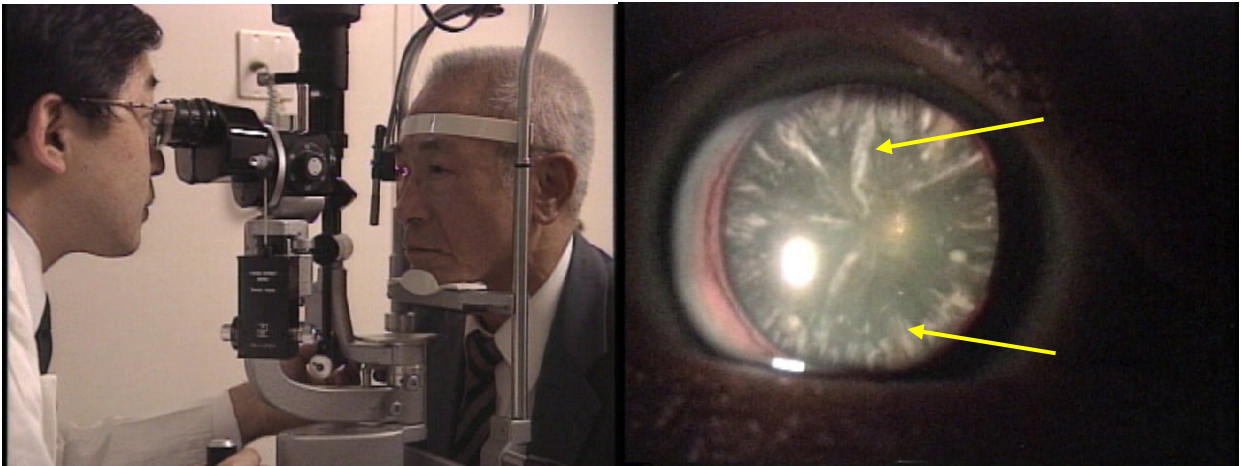


慈恵医大附属病院における

白内障手術に関するご説明



白内障の診察

眼の状態を詳しく調べます

初期の白内障

水晶体の周辺部が混濁しています(← 部)



白内障手術の風景

手術時の痛みは殆どなく、快適な手術が受けられます

内容

I. 白内障について

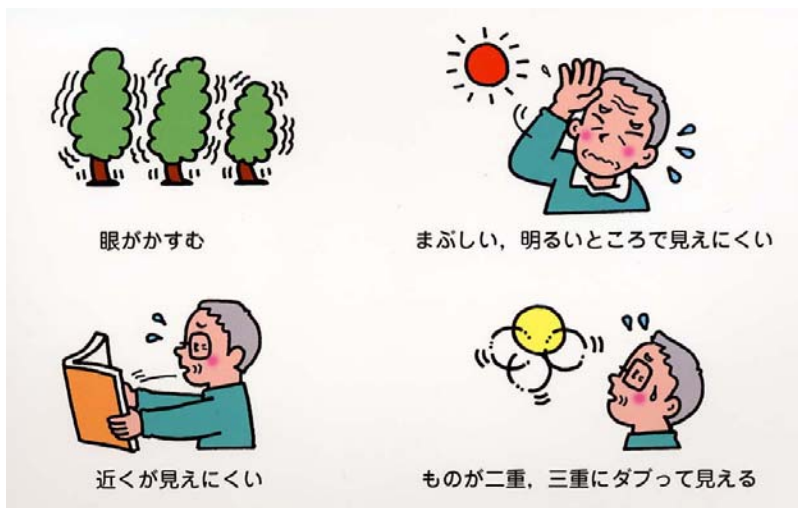
1. 白内障とは？
2. 白内障にはどのような症状があるのでしょうか？
3. 白内障手術の治療法は手術だけですか？
4. どのような時期に手術を受けたら良いのでしょうか？
5. 手術の時期を決める上での参考事項を教えてください
6. 手術後には必ず見えるようになりますか？

II. 慈恵医大附属病院眼科で白内障手術を希望される方へ

1. 手術予定日はいつ分かりますか？
2. 入院の方が良いですか？ 日帰り手術でも良いですか？
3. 手術前に決めておいた方がよいことはありますか？
4. 手術の時に発生しうる合併症は？
5. 術後はどのように見えますか？
6. 手術が難しい眼であると云われているのですが、大丈夫ですか？
7. 白内障手術は本当に簡単なのですか？

III. 白内障手術を受けられた方へ

1. 手術直後の見え方はどのようになりますか？
2. 視力はすぐ良くなりますか？
3. 眼鏡はいつ作ればよいのでしょうか？
4. 日常生活での注意点を教えてください。
5. 仕事と運動はいつからできますか？
6. 術後の合併症として、どのようなものがあるのでしょうか？
7. 何か心配事がありますか？

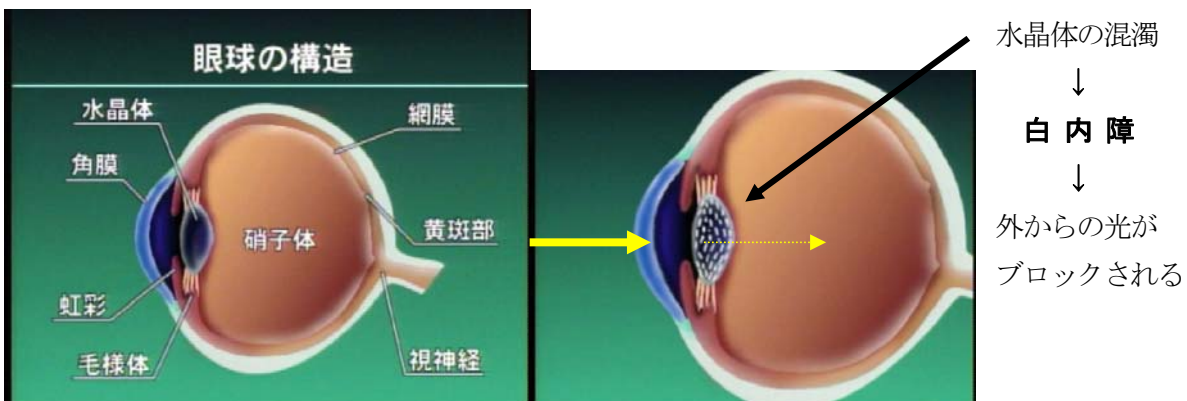


白内障について

1. 白内障とは？
2. 白内障にはどのような症状があるのでしょうか？
3. 白内障の治療法は手術だけですか？
4. どのような時期に手術を受けたら良いのでしょうか？
5. 手術の時期を決める上での参考事項を教えてください
6. 手術後には必ずよく見えるようになりますか？

白内障とは

白内障とは、眼の中のレンズである水晶体という組織が白く濁ったために、外からの光が眼の内へ十分入らなくなった結果、物が見えにくくなっている病気です。お年をとられたことが原因である老人性白内障が最も多いのですが、最近はアトピーや糖尿病、特殊な薬の影響、外傷などが原因で、若い人の間にも白内障が増えています。



白内障にはどのような症状があるのでしょうか

白内障の症状には、視力の低下だけではなく、霧がかかって見える（霧視）、まぶしい（羞明）、片目で物が二重に見える、などの症状があります。自覚症状の程度は、水晶体が濁っている部位と程度によって異なります。

老人性白内障では、混濁が水晶体の周辺部から始まるため、初期には自覚症状が少なくあまり問題にはなりません。進行するにしたがって霧視や羞明を感じるようになり、混濁が中央部にまでおよぶと視力低下が強くなります。

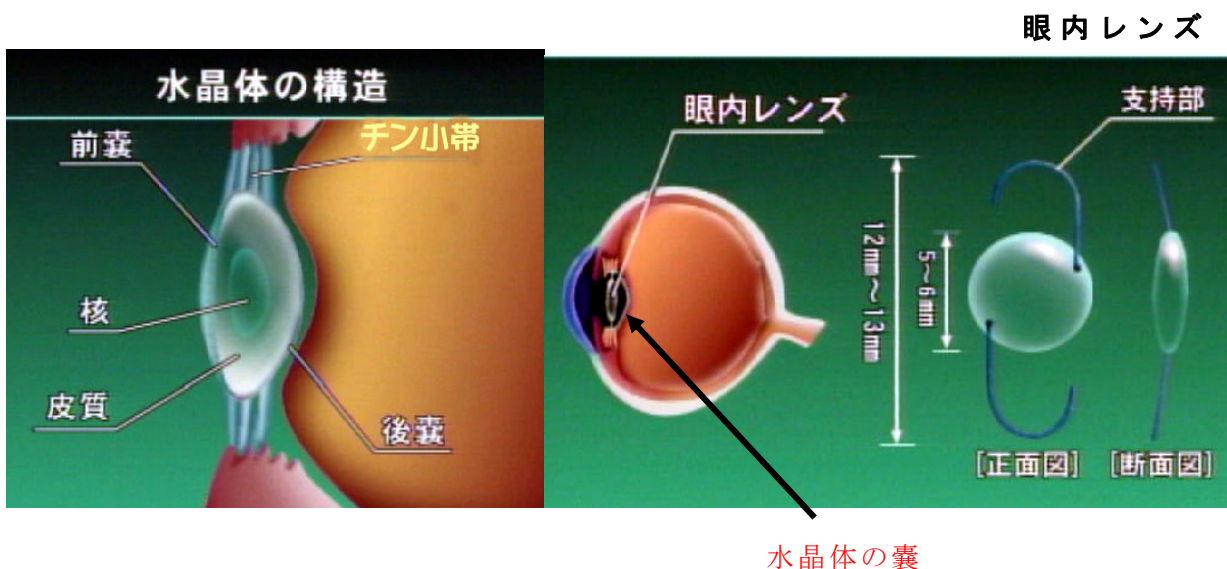
それに対して若い人の白内障では、初期の段階から瞳孔の中央に混濁が生じることが多く、したがって早い時期から自覚症状が出現します。視力が低下していないにもかかわらず、明るい光が入って瞳が小さくなると殆ど見えなくなってしまうことがあり、日常生活が大変不便になったり、自動車の運転が危険になったりする場合があります。

白内障の治療法は手術だけですか

白内障に対して点眼薬や飲み薬がありますが、これらの薬は白内障の進行をある程度遅くさせるためのものです。したがって一度混濁した水晶体を再び透明にすることはできません。白内障が原因で生じた不快な症状（視力低下、霧視、羞明など）を改善させ、視力を取り戻すためには、手術によって濁った水晶体を取り除き、眼内レンズという人工の凸レンズと交換する以外には方法がありません。

以前は、混濁した水晶体の代わりに分厚い凸レンズの眼鏡やコンタクトレンズをつける必要がありました。最近では手術中に眼内レンズを安全に挿入することが可能となったため、術後快適な生活を送れるようになりました。

麻酔法が改善されたこと、超音波による水晶体摘出法が確立したこと、眼内レンズが安全に挿入できるようになったことなど、この十年間の間に白内障手術が画期的に進歩したため、痛みがなく、つらい思いをすることなしに白内障手術を受けることができるようになりました。



* 超音波乳化吸引術

水晶体の前側にある殻である前嚢という薄い組織を丸く切り取って、中にある核と皮質を吸引して混濁を除去します。核は硬い組織であるため、そのままでは狭い場所から吸引することができないため、超音波で砕いてから細い管で吸引除去します。皮質は柔らかい組織なので、そのまま細い管から吸い取ることができます。濁った水晶体を吸引した後は、水晶体の殻である前嚢の一部と後嚢が残ります。慈恵医大附属病院では、非常に小さな創口から水晶体を摘出しており、眼に負担の少ない優しい手術を行っています。

* 眼内レンズ

袋状に残した水晶体の前嚢と後嚢の中に、直径5～6mmの眼内レンズを挿入します。レンズには、硬い素材のものと、折りたたんで入れる柔らかい素材のものがあります。慈恵医大附属病院では、主として3mm未満の傷口から折りたたんで眼内に挿入し、中で大きく開く柔らかい眼内レンズを使用していますが、患者様の眼の状態に合わせて、最も適切と思われるレンズを選択しています。

どのような時期に手術を受けたら良いのでしょうか

手術時期は、日常生活を行う上での不便さをどの程度感じているかによって、患者様自身が決定できます。医師から白内障があることを告げられ、ご自身が感じている不快さや不便さの原因がその白内障にあると診断されれば、いつ手術を受けても良いことになります。

実際に手術を受けるか否かは、いろいろな要因が絡んできます。患者様の職業や年齢、現在の健康状態、趣味や車の運転の有無、家族構成、視力低下の程度など、様々な観点から総合的に判断すべきであると思います。

白内障の程度が軽い場合には、絶対に手術を受けたくないのであれば、見え方が不自由であっても無理に手術を受ける必要はありません。しかし、その場合には定期的に眼科で検査をお受けになられることをお勧めします。知らずに進行していて、緑内障など他の病気を起こしたり、適切な手術時期を逸してしまうことを防ぐためです。

手術の時期を決める上での参考事項を教えてください

1. 手術時期の目安として、老眼鏡を作っても新聞が読みにくく感じたとき、自動車の運転時に不安を感じたとき、仕事が不自由になったとき、趣味（ゴルフなど）のときに不快に感じたとき、日常生活に支障をきたしたときなどがあげられます。
2. 視力の値だけで手術時期を決定する必要はありません。程度が軽い場合には、視力が悪くても見え方に不自由を感じていなければ無理に手術を受ける必要はありません。しかし、白内障手術を安全に行いやすい時期があります。定期検査を受けて、その時期を逸しないよう、眼科医からアドバイスをもらうとよいでしょう。
3. 一般に、時期が早いほうが手術を安全に行いやすく、合併症の発生率は低いようです。それに対して、手術時期を延ばして白内障を進行させすぎると、核が硬くなったり、水晶体が膨化したりして、手術の難易度が高くなります。
4. 進行しすぎた場合、手術時間が長くなったり、最新の術式を採用できなくなることがあります。また、放置したままにすると、緑内障の発作や水晶体の脱臼などによって手遅れになることがありますので、眼科医の定期検査は大変重要です。
5. 手術後1週間位は、根を詰めた仕事はしないほうがよいでしょうし、旅行や軽い運動は2週間位、ゴルフなどの運動や海外旅行などは1ヶ月位は避けたほうがよいと思います。したがって、これらの予定を考えた上で手術日を決定されるとよいでしょう。
6. 手術直後に、結膜の出血で眼が赤くなり、消えるのに2～3週かかることがあります。結婚式や重要な会合がある場合なども、1ヶ月程度余裕をみられたほうがよいと思います。

手術後には必ずよく見えるようになりますか

1. 手術である以上、その安全性は100%ではありません。しかし、最近の白内障手術はきわめて安全になっています。一般には、手術を受けられた患者様の95%以上の方が、視力0.5以上に回復するといわれています。
2. 白内障以外に眼の病気がない患者様では、殆どの場合白内障手術によって良い視力を回復することができます。しかし、視力が回復する速さは患者様の眼の状態によって異なっており、手術翌日からよく見えるようになる人もいれば、回復に1ヶ月ぐらいかかる人もいます。
3. 眼のフィルムである網膜や、眼の神経（視神経）が障害されている場合には、視力が回復しないことがあります。したがって、手術前から黄斑変性症や糖尿病網膜症などで網膜が強く障害されている場合には、手術によってどの程度視力が回復するかは不明です。なお、白内障で水晶体が強く混濁している場合には、眼の中を詳しく調べることができないため、手術を受ける前には網膜や視神経が障害されていることがどうか分からないことがあります。
4. まれ（500件に1件の頻度）ですが、手術時に眼内レンズを挿入しない方が良いことがあります。これは、水晶体を支えている組織が弱くて水晶体が正常な位置からずれている（脱臼している）ときや、水晶体の嚢が弱くて術中に破れた（破嚢）ときなどです。そのような場合でも、コンタクトレンズを使う事によってよく見えるようになります。また、手術後の眼の状態によっては、後日眼内レンズを眼に縫い付ける手術を受けることも可能です。
5. 極めて安全に行われるようになった白内障手術でも、必ず一定の割合（1~2%）で手術中に合併症が発生します。しかし、そのような合併症が発生しても、最終的には90%以上の確率で通常の場合と大差ない結果を得ることができます。
6. 通常の場合、手術後には眼鏡が必要となります。手術で人工の眼内レンズを挿入しても、このレンズには調節する力が無いため、遠近両方にピントを合わせることは不可能だからです。たとえば、眼鏡なしに遠くが良く見えれば老眼鏡が必要であり、手元が良く見えるようであれば遠く用の眼鏡が必要となります。
7. 最も重い合併症は、術後の感染症です。2000~5000例に1例の頻度で発生するといわれています。きわめて稀ではありますが、一度発症すると視力の回復を望めない場合がありますので、このような合併症を未然に防ぐためにも、手術後の診察が大変重要です。

白内障手術を希望される方へ

1. 手術予定日はいつ分かりますか？
2. 入院の方が良いですか？ 日帰り手術でも良いですか？
3. 手術前に決めておいた方がよいことはありますか？
4. 手術の時に発生しうる合併症は？
5. 術後はどのように見えますか？
6. 手術が難しい眼であると云われているのですが、大丈夫ですか？
7. 白内障手術は本当に簡単なのですか？

手術日の予約はいつできますか？

手術目的で受診された場合には、原則として初診の日に手術日の日程を決定致します。

但し、内科的な病気などのために、手術をすぐに計画して良いかわからない場合には、担当の先生と相談し、許可をもらってから手術日を決めることとなります。糖尿病や心臓・腎臓などのご病気で、近くの内科に通院中の場合には、眼科受診前に内科の先生に「白内障手術を受けても大丈夫か」お尋ねになっておかれるとスムーズに手術予定日を決めることができます。

入院の方が良いですか？ 日帰り手術でも良いですか？

入院して手術を受けられる利点は、術直後に何かトラブルが起こっても、すぐに対処してもらえるため、安心なことです。また、術後の安静をしっかりと守ることができます。しかし、病院に拘束されること、他人との共同生活をしなければならないことは、人によってはわずらわしい事だと思われれます。

それに対して日帰り手術では慣れた自宅で静養することができ、気分的に楽です。しかし、手術翌日に混雑した外来に来て、診察を待たねばいけないというわずらわしさもあります。

現在の白内障手術はきわめて安全であり、術後に痛みが生じたり、全身状態が悪くなる確率は5%未満と考えられています。この確率を、患者様が高いと考えるか低いと考えるかによって、入院にするか日帰りにするかを決められたら良いでしょう。

ただし、通院するのに付き添いがいない方、遠方で通院に時間がかかる方、眼の状態が特殊であり術直後にいろいろな症状が発生する危険のある方、全身状態に問題のある方、両眼を短期間で手術したい方の場合には、入院された方が有利であると思えます。

手術前に決めておいた方がよいことはありますか？

術前検査のときに、手術時に眼内に挿入するレンズの度数を決定します。手術の時に水晶体の代わりに挿入する眼内レンズには、光を屈折させる機能はありますが、厚みを変えてピントを合わせるという調節機能はありません。したがって、眼鏡なしで遠くが良く見えれば、近くのものほとんど見え、近くのを良く見えるように設定すれば、遠くのは眼鏡がなければよく見えません。

通常は、軽い近視になるように度数を設定することが多いのですが、眼鏡なしで遠くまたは近くの一方がはっきり見えるようになりたいというご希望があるようでしたら、担当医にお伝えください。できるだけご希望に添えるようにしたいと思います。

しかし、一人一人の眼の状態が違うため、どうしても誤差が生じます。コンピューターを用いた測定、計算をするのですが、予測どおりの屈折度になる確率は、70～80%程度です。術後の屈折度数に満足できない場合には、眼内レンズを交換することもあります。

最近、遠方と中間距離（70cm くらい）、または遠方と近方の両方にピントが合う多焦点眼内レンズが厚労省で認可されました。二焦点のレンズであるため、遠方がはっきり見える度数のレンズを挿入した場合でも、ある程度近くのものにピントが合うようになっています。日常生活をより便利にさせる画期的なレンズなのですが、眼の状態によってはこのレンズが適していない場合もあり、手術前には十分な検査が必要になります。またこの新しい眼内レンズは、健康保険での手術が認められていません。自費での手術となりますので、興味のある方は担当の先生にご相談ください。

手術の時に発生しうる合併症は？

1. 眼内レンズを挿入しないことがあります。

水晶体の嚢が弱くて術中に嚢が破れた場合（後嚢破損）や、破れた嚢から硝子体が前のほうに脱出してきた場合（硝子体脱出）、破れた嚢から水晶体の核が硝子体の中に落下した場合（核落下）、水晶体を支えているチン小帯が弱くて水晶体が正常な位置からずれて脱臼している場合（水晶体脱臼）などでは、最初の手術で眼内レンズを挿入しないほうが良い場合があります。500 件に 1 件程度の頻度ですが、そのような時には手術の時間も長くなります。また、後日眼内レンズを眼に縫い付ける手術を行うか、もしくはコンタクトレンズを使用してもらうこととなります。

2. きわめて稀ですが、手術中に眼の中で突然大出血が起こることがあります。

駆逐性出血といい、昔の手術法ではときどき遭遇することがありましたが、現在の手術法になってからは、ほとんど見ることはありません。当院眼科でも、ここ数年間は 1 例も経験していません。

3. 白内障手術は、体への影響が非常に少ない手術ですのでほとんど心配ありませんが、手術とは関係なしに突然心筋梗塞や脳梗塞が起こらないとはかぎりません。

手術直後、強い痛みは起こりますか？

通常の白内障手術では、術直後に「ゴロゴロ感」や「しみる感じ」「軽い圧迫感」などを感じることもありますが、強い痛みを感じることはありません。しかし、眼の状態が特殊であったり、術中に特別な処置を施す必要があった場合などでは、稀に強い痛みを感じる場合があります。手術直後に痛みを感じられる場合には、遠慮せずに看護師・医師にお伝え下さい。痛み止めの薬が処方されていますので、無理して我慢せずに内服して下さい。

術後はどのように見えますか？

1. 通常は良好な視力を取り戻すことができます。
2. 手術直後は、視野の中央がピンク色に見えることがありますが、これは手術時の強い顕微鏡の光の影響です。数日後にはほとんどなくなりますので心配ありません。
3. 視野の中に浮かんで見える黒い糸くずのようなもの（飛蚊症）が増加したり、新たに出現することがありますが、眼底検査で異常がなければ心配ありません。明るい光がたくさん入るようになった影響ですので、じきに感じなくなります。
4. まぶしさを強く感じたり、色の感覚が少し変化することがあります。遮光眼鏡（サングラス）などを着用すると良い場合がありますので医師にご相談ください。

手術が難しい眼であると云われているのですが、大丈夫ですか？

1. 緑内障やブドウ膜炎などが原因で瞳を大きくすることができない眼や、炎症が起こっている眼、生まれつき異常がある眼、糖尿病など全身疾患がある眼、外傷や手術を受けたことがある眼などに対する白内障手術は、通常の老人性白内障の手術とは異なり、かなり難易度が高くなります。
しかし、数年前では「手術が不可能である」といわれていた眼でも、最近ではかなり安全に手術ができるようになってきました。最新の情報を正しく得られることが重要だと思います。
2. 手術を受けるか否かは、患者様が現在感じている不自由さと、手術をしないでそのまま放置していた場合にさらに悪化していく可能性、手術によって良くなる程度とその確率などを検討した上で、患者様自身が総合的に判断すべきことです。
3. 私たち医師は、これらの情報を患者様に提供します。また、判断を委ねられた場合、「自分の家族ならば手術をしたほうが良いと思うか」ということを基準にアドバイスさせていただきますが、残念ながらその結果を保証することはできません。医師からできるだけ多くの情報を聞き出し、その上で決定していただきたいと思います。

白内障手術は本当に簡単なのですか？

最近、テレビや健康雑誌などで、「白内障手術は簡単だ」と思われるような情報が伝えられるようになりましたが、白内障手術は本当に簡単なのでしょうか？

1. 簡単であると思われる要素

以前に比べて、手術時間が短くなり、手術中の痛みもなく、手術の安全性も飛躍的に向上しました。また、希望されれば面倒な入院をすることなく、日帰りで手術を受けることも可能になりました。したがって、患者様にとっては、以前よりも負担が少なく、気軽に手術を受けることができるようになったわけです。

2. 白内障手術を軽視すると大変です

白内障手術の手技は、以前とは比較にならないほど細かい操作が多く、難しくなっています。また、どんなに安全な手術であっても、合併症はやはりある一定の確率で起こります。手術中に術者が誤った処置をしていないにもかかわらず合併症が発生する頻度は、1~2%程度と考えられており、中には術後視力が回復できない場合もあります。手術である以上、危険性を0にすることはできませんので、あまり軽い気持ちで手術をお受けになられることは避けられた方が良いでしょう。

3. 安全が第一、眼に優しい手術を心がけています

慈恵医大附属病院の眼科では、そのような合併症に対する適切な処置ができるため、合併症が発生しても最終的には90%以上の確率で通常の場合と大差ない結果を得ることができます。手術の時間が少し長くなっても、安全な手術を行うことを第一に考えています。

白内障手術を受けられた方へ

1. 手術直後の見え方はどのようになりますか？
2. 視力はすぐ良くなりますか？
3. 眼鏡はいつ作ればよいのでしょうか？
4. 日常生活での注意点を教えてください。
5. 仕事と運動はいつからできますか？
6. 術後の合併症として、どのようなものがあるのでしょうか？
7. 何か心配事がありますか？

手術直後は見え方に違和感があります

1. 明るく鮮明ですが、少しまぶしく感じます

特殊な状態の場合を除き、術翌日から非常に明るく、物が鮮明に見えるようになります。しかし、少しまぶしすぎるように感じることもあります。手術直後はかなりまぶしく感じるものの、時間が経過するとあまり感じなくなってきました。まぶしさが続くようであれば、**白内障術後用のサングラス**をおかけになることをお勧めします。

2. 視野の中心が**ピンク色**に見えますが、すぐ直ります

手術直後、見ようとする視野の中心の部分が赤またはピンク色に見えることがあります。これは、手術中に使った顕微鏡の強い光の影響で、残像が残っているためです。**数日で元に戻ります**ので心配ありません。

3. 以前よりも物が少し**青み**を帯びて見えます

手術前には、水晶体が加齢によって黄色味を帯びており、青色を始めとする短波長の光が眼に入りにくくなっていました。手術で濁った水晶体が摘出され、無色透明の眼内レンズがその代わりに挿入されています。したがって、手術前よりも青色の（短波長）光が眼に入りやすくなっているのです。色の感覚が少し変化することがあります。タバコの煙が、少し紫がかって見える（紫煙）かもしれません。

4. **飛蚊症**が出現することがありますが、通常は心配ありません

術後、視野に黒いものが飛んでいるのに気がついたり、以前よりも増加しているのに気づくことがあります。これは、術後眼の中に入る光の量が急に増えたため、眼の中の硝子体にある混濁が鮮明に網膜上に影として写しだされるようになったためです。通常は、**病気ではなく生理的な混濁**が原因であり、時間が経つにつれてあまり感じなくなりますが、**網膜剥離などの前兆**として現れることもありますので、一度眼底検査をお受けになっておかれた方が良いでしょう。なお、われわれの病院では、白内障術後必ず眼底検査を行っています。

5. 視野の**周囲に幕**があるように感じる場合があります

眼内に入る光の方向によって、光が眼内レンズのエッジで反射して、視野の周辺にモヤッとした雲のような像を作ることがあります。最初は気になるかもしれませんが、見え方や視力に悪影響を及ぼすことはありません。そのうち気づかなくなってしまうます。

視力はすぐに良くなりますか？

1. 視力の回復の速さは、人によって、また眼の状態によって大きく異なります。
手術翌日から、視力表の下の方まで見えるようになる人もいれば、1週間以上かけて徐々に視力が回復していく方もいらっしゃいます。角膜の状態や眼底の状態など、さまざまな要因で回復の速さは異なってきます。
2. 裸眼視力は少しずつ変化することが多いようです。
眼鏡を用いないで見える視力は、術後の経過とともに少し変化します。裸眼視力が安定するのは、術後1～2ヵ月後です。眼鏡の度数も少し変化します。

眼鏡は、いつ作ればよいのですか？

眼の状態がある程度安定するのに1～2ヶ月かかります。その間、眼に合う眼鏡の度数も微妙に変化していきます。手術直後に良く見えた眼鏡の度数では、2～3ヶ月後には合わなくなってしまい、あまり良く見えなくなることがあります。

1. 術後1～2ヶ月してから眼鏡を作成する場合
 - ・術前に使用していた眼鏡である程度不自由なく見える場合
 - ・術後、眼鏡を使用しなくてもある程度不自由なく見える場合
今までの眼鏡を使って、または眼鏡なしで1～2ヶ月過ごしていただきます。
2. 術後1週以内に眼鏡を作成する場合
 - ・術前の眼鏡や眼鏡なしでは、日常生活・社会生活に困る場合
 - ・作り変えることを納得した上で、すぐに最善の眼鏡を使用したい場合
術後すぐに適切な眼鏡を作成し、2～3ヵ月後に微調整した新しい度数の眼鏡を作り直していただきます。

日常生活の注意点は？

1. 手術後の**感染**が最も恐ろしいため、手指などを清潔に保つことが大切です。
2. **洗顔**は、退院後可能ですが、流水を使い、眼球を圧迫しないよう注意してください。術後4～5日は、眼球周囲に触れないよう洗顔してください。眼の中にばい菌が入らないようにするため、汲み置きの水で眼を洗うことは避けてください。また、眼球を軽く圧迫しても良いのは、術後1ヶ月以上経過してからです。
3. **入浴**も、退院後すぐに可能ですが、すべてを転ばないよう極力気をつけてください。最初のうちはシャワーだけにし、数日後から浴槽に入るようにしてください。入浴後は、目薬をさすようにしましょう。
4. **洗髪**は、術後1週位から可能ですが、最初はシャンプーなどが眼に入らないよう注意してください。

仕事や運動はいつからできますか？

1. 通常の白内障手術では、日常の家事や散歩は術後3日目頃より可能であり、術後1ヶ月を経過すれば、ほぼ術前と同じ生活ができます。仕事の種類にもよりますが、重労働や極端に眼を使う仕事でなければ術後1週目より職場復帰は可能です。
2. 近くへの短期間の旅行であれば術後1週より可能ですが、遠距離旅行（特に海外旅行）などは1ヶ月ぐらいの間避けておいたほうが無難でしょう。
3. ゴルフなどの通常のスポーツは3～4週後より可能ですが、眼を打撲する可能性のある競技や水泳などは2ヶ月ぐらい避けておいたほうが良いでしょう。水泳時には必ずゴーグルを使用してください。

術後の合併症として、何に気をつければよいのですか？

1. 術後早期の合併症＝細菌性眼内炎
非常に稀ですが（頻度は2000～5000人に1人）、最も重篤な合併症に術後細菌性眼内炎があります。術直後何も問題なく、鮮明に見えるようになっていたにもかかわらず、術後3～7日頃に急に視力がなくなり、強い痛みやひどい充血が生じた場合にはこの合併症の可能性がります。放置すると失明する危険があります。すぐに近医または当科を受診してください。早期に治療を開始する必要があります。
2. 術後3ヶ月以上経過してから生じる合併症＝後発白内障
術後数ヶ月経過してから、眼内レンズを入れている水晶体の嚢が混濁して手術前のように霧がかかって見えるようになることがあります。後発白内障という合併症であり、10人に1～2人ぐらいの割合で生じますが、外来でレーザー治療を受けることによってすぐに直ります。視力が悪くなってきたと感じられたら、あきらめずに診察を受けてください。

何か心配事がありますか？

1. 眼内レンズの寿命は？
特別なことがなければ、50年ぐらい大丈夫であると考えられています。
また、何か問題が生じれば、眼内レンズを交換することも可能です。
2. 眼をこすったら眼内レンズがずれてしまうことはありませんか？
通常の衝撃では、外れたりずれたりすることはありません。しかし、稀に（1000人に1人位の割合）眼内レンズを入れている嚢が外れやすい人がいます。このような方の場合には、手術後ご説明し、注意していただくようにしています。
3. 術後、眼内レンズの度数を変えることはできないのですか？
術後、眼鏡なしでもっと近くを見えるようにしたい、近くは見えなくても良いから眼鏡なしで遠くをもっと見えるようにしたい、などのご希望が強い場合には、術後眼内レンズを交換したり追加することでご要望に答えることが可能です。しかし、この場合には手術にある程度の危険性が伴うことになります。主治医とご相談ください。